

鉄馬の偉人伝

第58回

ハーレーダビッドソン・レインボー
天田昭治さんの巻

SHOJI TAMADA

イラスト・文◎綿谷寛

Illustration & Text: Hiroshi Watsuki
取材協力◎ハーレーダビッドソン・レインボー
(☎0298-22-6666)

鉄馬周辺の偉大な方から、貴重なお話をうかがうこのコーナー。今回は、レースの実績はもちろん、独自のカスタム・パーツ製作でも名を馳せる、名店長の登場です。

ビッグ・ツインの鼓動感
は日本の生活のせめてを
ひきこめたい。
こんなエンジン
他にはないよ



「全国津々浦々に網羅するハーレーダビッドソン正規販売店の中でも、積極的にレースなどに参戦して、そこで培った技術力をライド・バックし、スポーツスターやビュエルなどのオリジナル・レーシング・パーツを開発、販売している店は珍しいんです。」
と、今回の取材先を説明する担当のS君とともに、クルマで向かった先は、茨

城県土浦市にある「ハーレーダビッドソン・レインボー」。

都心からクルマで約1時間、担当S君といっしょにオナチの話(笑)で盛り上がりながら、アツという名の距離が、しかし、ワレレみたいな物産山の輩は別として、全国津々浦々に広がるハーレーの販売店の中から、あえてこの店をチョイスして、尾撃く連う、ユーザーがいるということ、このショップならではのスペシャルな魅力があるのだろうか。

というワケで今回、お話をうかがったのは、店長の天田昭治さんだ。
まず、サラッと何げなく語るそのレース経歴に驚かされた。

「16歳でバイクの免許を取って、最初に買ったのがカワサキのZII。18歳のころはよく近くの峠道走っていただけですけど、そこは事故がすごく多かったですよ。それで、飛ばすのもマズイかなと思っ

てサーキットに行ってみようと思った。店をオープンしたのは82年。初めは国産車とBMWを扱っていたのですが、翌年にエボリューション・エンジンが採用されてからハーレーの販売を始めたのは、それからですね。レースを始めたのは、そしたら、いきなり表彰台に上がっちゃった(笑)。
で、次の年は店の開店準備なんかで忙しくてやってなかったんですけど、83年にヤマハTZ250を買って全日本選手権に出たら、筑波の楢帆のレースでまた表彰台に上がっちゃった(笑)。初めは遊びで筑波にだけ参戦するつもりで考えていたのが、1年間、全部のシリーズ戦に出場したら、ランキング2位で……。次の年にはホンダの後押しでB級を走り感して、A級になっちゃったんです。ちよつと待つて下さい。それってチー

ムとしてじゃなく、個人的な趣味なんですよね？」

「特別ですよね。会社は、店をオープンしていたので、会社のお金を横領して(笑)。会社というか、お父さんと兄弟と3人で始めたバイク屋だったの、その看板をくっ付けて、別にレースが真意になると思っついていないですが、要はバイクに乗る楽しさとは別に、作る楽しさもあるの、そういう流れで始めたんです。それから88年の中華までレースをやつてやめました。その前に国産車の取り扱いはやめたんですよ、キツパリと」

「まあ、これまでいろいろなオートバイに乗りましたが、結局、日本の風土、環境が一番合って、ツーリングをやつても何をバイクは、ハーレーのような気がしたんですよ。だって、仕事から抜け出して余暇を楽しもうとしたいわけでしょう。であれば、日本での道路状況において、スピードの必要性はあまりないと思うんですけど、それに、ビッグ・ツインのエンジンの鼓動感というか、生活のせわしなさをいやすてくれるみたいな、そういう感じを受けたんですよ」

「180度の方向転換ですね(笑)。
「言い訳じゃなく、国産のマルチは、今も大好きなんです。レースで飛ばすのも好きなので、200馬力あつてもいいぐらい(笑)」。ただ日本の制動速度、交通

「ハーレーは日本の風土、環境にも合っていて、何をやっても楽しめます」

状況、環境、法律にすべて向き直つて乗れるのが、やっぱりVツイン・エンジンじゃないかと、このハーレーの物作りの奥深いところが、100年の歴史を生んでいるのだと思いませんか？」

もうレースには未練はないか？」
「いや、実は94年から98年までスポーツスターでレースを再開して、その後はちよつと違う道へと思つて、今度はビュエルで01年まで参戦しました(笑)。ま、01年以降はサーキットでバイクには乗っていないですが、僕に不幸があるとしたら、趣味が仕事ということですよ(笑)。だからオリジナル

ルのカスタム・パーツにしても、まっすぐ自分専用として作る。それをお客さん用にライド・バックしていくという考えですね。これをやつたら売れるだろうなってつもりじゃなく、もう本当に、カスタム・パーツを作るのは趣味の世界、そろそろまたレースに出たくてうずうずしているのでは……」

「丸5年乗っていないから無理かな、と思つて久しぶりにビュエルに乗ったけど、乗れますね(笑)。楽しかった」
「僕は体によくはない(笑)。これからもレースに参戦して、お客さんにパーツをライド・バックして下さい。」



レーサーとしても実力者の天田さんの、これは01年に作ったビュエルのマシン



自分で図面を描いて、DRAWINGをパソコンで描いて、レーザーでカットして作るの、楽しいね